

MITSUBISHI 三菱電機パッケージエアコン

冷媒配管 工事 電気配線 説明書

販売店・工事店様用

冷媒R410A対応

PL-ZRP・EA2
PL-ERP・EA2

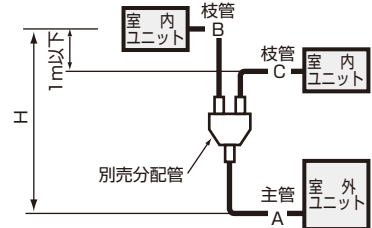
※室外ユニット形名違いで内容が異なる場合がありますので、「冷媒配管」「電気配線工事」の項は室外ユニット側の据付工事説明書も参照願います。
※既設配管を流用する場合の注意事項等は、室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

1. 同時ツインシステム 冷媒配管制限

■室外ユニットにより、冷媒配管長さ・ベンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

〈スリムZR・スリムER・冷房専用シリーズの場合〉

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C	チャージレス配管長 A+B+C	B-C	ベンド数	室内外ユニットの高低差H
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形 PU-CRP80形	50m以下	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ZRP112~ZRP160形 PUZ-ERP112~ERP160形 PU-CRP112~CRP160形	75m以下 (注1)				
PUZ-HRP80~HRP160形	100m以下 (注2)				
PUZ-ERP224形 PUZ-ERP280形	120m以下 (注2)				
PUZ-ZRP224形					
PUZ-ZRP280形					



●配管サイズ

	能力形名	液管	ガス管
室内	40~63形	φ 6.35	φ 12.70
	71~160形	φ 9.52	φ 15.88
室外	80~160形	φ 9.52	φ 15.88
	224形	φ 9.52	φ 25.40
	280形	φ 12.70	φ 25.40

(注1)既設配管を洗浄レスで利用する場合には50m以下。(注2)既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。
(注3)ZRP224形、280形については〈A+B〉〈A+C〉の範囲は100m以下。

※冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。

1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

〈スリムZR・スリムERの場合〉

室外ユニット	A+B+C 冷媒追加チャージ量 (kg)										
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下	76~100m以下				
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形 PUZ-ZRP112~ZRP160形 PUZ-ERP112~ERP160形 PUZ-HRP80~HRP160形	追加充填 不要	0.6kg	1.2kg	1.8kg	2.4kg						
PUZ-ERP224形 PUZ-ERP280形								0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg
PUZ-ZRP224形								1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg
PUZ-ZRP280形								0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg
		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg	追加充填量 を下式にて算出					

〈冷房専用シリーズの場合〉

室外ユニット	A+B+C 冷媒追加チャージ量 (kg)				
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下
PU-CRP80形 PU-CRP112~CRP160形	追加充填 不要	0.3kg	0.6kg	0.9kg	1.2kg

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

$$\begin{aligned}
 \text{追加充填量 (kg)} &= \frac{\text{主管：液管サイズ } \phi 12.7 \text{ の総長} \times 0.11}{(\text{m}) \times 0.11 (\text{kg/m})} + \frac{\text{主管：液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.09 (\text{ガス管：} \phi 25.4)}{(\text{m}) \times 0.09 (\text{kg/m})} \\
 &+ \frac{\text{枝管：液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.06 (\text{ガス管：} \phi 15.88)}{(\text{m}) \times 0.06 (\text{kg/m})} + \frac{\text{枝管：液管サイズ } \phi 6.35 \text{ の総長} \times 0.02}{(\text{m}) \times 0.02 (\text{kg/m})} - 3.6 (\text{kg})
 \end{aligned}$$

〈例〉室外ユニット：224形主管（液管） A：φ9.52…30m
室内ユニット1：112形枝管（液管） B：φ9.52…30m
室内ユニット2：112形枝管（液管） C：φ9.52…25m

主管（液管）φ9.52はA=30m 枝管（液管）φ9.52はB+C=55m

従って追加充填量=30×0.09+55×0.06-3.6=2.4 (kg) 但し「70m時追加チャージ量」より少ないため、追加充填量=3.6 (kg)

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

2. ベンド数は、〈A+B〉、〈A+C〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

- 室外ユニットのストップバルブは全閉（工場出荷仕様）のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポート口から真空引きを行ってください。
- 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路がつながります。ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

（お願い）

- フレアシート面には、必ず冷凍機油を塗布してください。ネジ部には塗布しないでください。（フレアナットがゆるみ易くなります。）
- 室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。
- 配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。
- 配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。

2. 同時トリプルシステム 冷媒配管制限

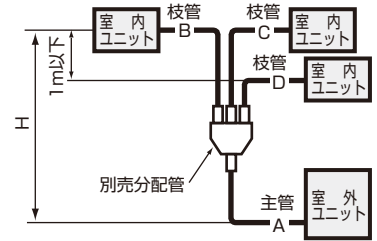
■ 室外ユニットにより、冷媒配管長さ・バンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

(スリムZR・スリムERの場合)

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C+D	チャージス配管長 A+B+C+D	B-C 又は B-D 又は C-D	バンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形	75m以下(注1)	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ERP224形	100m以下(注2)				
PUZ-ERP280形					
PUZ-ZRP224形	120m以下(注2)				
PUZ-ZRP280形					

(注1) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には50m以下。(注2) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。
(注3) ZRP224形、280形については〈A+B〉〈A+C〉〈A+D〉の範囲は100m以下。

※冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。



●配管サイズ

能力形名	液管	ガス管
室内 40~63形	φ 6.35	φ12.70
71~160形	φ 9.52	φ15.88
室外 80~160形	φ 9.52	φ15.88
224形	φ 9.52	φ25.40
280形	φ12.70	φ25.40

1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

(スリムZR・スリムERの場合)

室外ユニット	A+B+C+D 冷媒追加チャージ量 (kg)						
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下	76~100m以下
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形		0.6kg	1.2kg	1.8kg	2.4kg		
PUZ-ERP224形	追加充填 不要	0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg	追加充填量 を下式にて算出	
PUZ-ERP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		
PUZ-ZRP224形		0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg		
PUZ-ZRP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{追加充填量} \\ \hline \text{(kg)} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{主管：液管サイズ} \\ \hline \phi 12.7 \text{ の総長} \times 0.11 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{主管：液管サイズ} \\ \hline \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.09 \text{ (ガス管: } \phi 25.4) \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{枝管：液管サイズ} \\ \hline \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.06 \text{ (ガス管: } \phi 15.88) \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{枝管：液管サイズ} \\ \hline \phi 6.35 \text{ の総長} \times 0.02 \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline 3.6 \text{ (kg)} \\ \hline \end{array}$$

〈例〉 室外ユニット : 224形主管 (液管) A : φ9.52…30m
室内ユニット1 : 80形枝管 (液管) B : φ9.52…20m
室内ユニット2 : 80形枝管 (液管) C : φ9.52…20m
室内ユニット3 : 80形枝管 (液管) D : φ9.52…20m

主管 (液管) φ9.52はA=30m 枝管 (液管) φ9.52はB+C+D=60m
従って追加充填量=30×0.09+60×0.06-3.6=2.7 (kg) (端数切上げ)

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

2. バンド数は、〈A+B〉、〈A+C〉、〈A+D〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

- (1) 室外ユニットのストップバルブは全閉(工場出荷仕様)のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポートから真空引きを行ってください。
- (2) 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路がつながります。ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

(お願い)

- フレアシート面には、必ず冷凍機油を塗布してください。ネジ部には塗布しないでください。(フレアナットがゆるみ易くなります。)
- 配管接続は、必ずダブルスパナにて行ってください。

- 室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。
- 配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。
- 配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。

3. 同時フォーシステム 冷媒配管制限

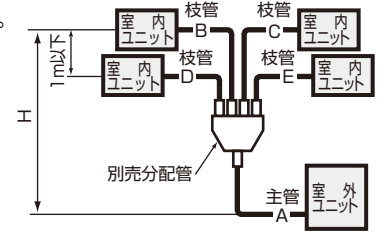
■室外ユニットにより、冷媒配管長さ・ベンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C+D+E	チャージ配管長 A+B+C+D+E	B-C 又は B-D 又は B-E 又は C-D 又は C-E 又は D-E	ベンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-ERP224形 PUZ-ERP280形	100m以下 (注1)	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ZRP224形 PUZ-ZRP280形	120m以下 (注1)				

(注1) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。

(注2) ZRP224形、280形については〈A+B〉〈A+C〉〈A+D〉〈A+E〉の範囲は100m以下。

※冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。



●配管サイズ

室内	能力形名	液管	ガス管
	40~63形	φ 6.35	φ12.70
71~160形	φ 9.52	φ15.88	
室外	80~160形	φ 9.52	φ15.88
	224形	φ 9.52	φ25.40
	280形	φ12.70	φ25.40

1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

室外ユニット	A+B+C+D+E 冷媒追加チャージ量 (kg)						
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~100m以下	101~120m以下
PUZ-ERP224形	0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg			
PUZ-ERP280形	追加充填 不要	1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg	追加充填量を 下式にて算出	
PUZ-ZRP224形		0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg		
PUZ-ZRP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

$$\begin{aligned}
 \text{追加充填量 (kg)} &= \text{主管: 液管サイズ } \phi 12.7 \text{ の総長} \times 0.11 + \text{主管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.09 \text{ (ガス管: } \phi 25.4) \\
 &+ \text{枝管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.06 \text{ (ガス管: } \phi 15.88) + \text{枝管: 液管サイズ } \phi 6.35 \text{ の総長} \times 0.02 - 3.6 \text{ (kg)} \\
 &= (\text{m}) \times 0.11 \text{ (kg/m)} + (\text{m}) \times 0.09 \text{ (kg/m)} + (\text{m}) \times 0.06 \text{ (kg/m)} + (\text{m}) \times 0.02 \text{ (kg/m)} - 3.6 \text{ (kg)}
 \end{aligned}$$

〈例〉 室外ユニット : 280形 主管 (液管) A : φ12.7...30m
 室内ユニット1 : 71形 枝管 (液管) B : φ9.52...25m
 室内ユニット2 : 71形 枝管 (液管) C : φ9.52...20m
 室内ユニット3 : 71形 枝管 (液管) D : φ9.52...25m
 室内ユニット4 : 71形 枝管 (液管) E : φ9.52...20m

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

主管 (液管) φ12.7はA=30m 枝管 (液管) φ9.52はB+C+D+E=90m
 従って追加充填量=30×0.11+90×0.06-3.6=5.1 (kg) (端数切上げ)

2. ベンド数は、〈A+B〉, 〈A+C〉, 〈A+D〉, 〈A+E〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

- (1) 室外ユニットのストップバルブは全閉 (工場出荷仕様) のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポート口から真空引きを行ってください。
 (2) 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路がつながります。ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

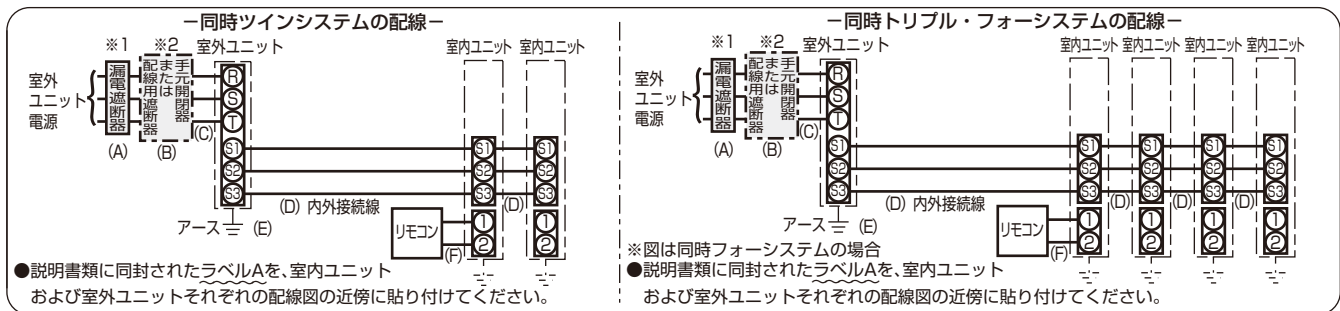
- (お願い) ●フレアシート面には、必ず冷凍機油を塗布してください。
 ネジ部には塗布しないでください。(フレアナットがゆるみ易くなります。)
 ●配管接続は、必ずダブルスパナにて行ってください。

- 室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。
 ●配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。
 ●配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。

4. 同時ツイン・トリプル・フォーシステム 電気配線

●電源重畳方式

■電源配線は、分岐開閉器、室内、室外の配線パターンとして下記の方法があります。事前に電力会社にご相談の上、その指示に合った配線をしてください。配線にあたっては、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」に従ってください。



※1 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。

漏電遮断器は、インバーター回路用遮断器 (三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品) を選定してください。

※2 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器 (開閉器+B種ヒューズ) または、配線用遮断器が必要となります。

4. 同時ツイン・トリプル・フォーシステム 電気配線(つづき)

■同時ツイン・トリプル・フォー共通項目

ユニット電源配線

記号 機種	(A)	(B)		(C)	(D)		(E)	
	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	ユニット電源線 太さ	内外接続線太さ (mm)		アース線 太さ (mm)
		開閉器容量	B種ヒューズ			総延長50m以下	総延長80m以下	
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形・PU-CRP80形	20A	30A	20A	20A	3.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP80S形・PUZ-ERP80S形・PU-CRP80S形	30A	30A	30A	30A	3.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ERP112形・PU-CRP112形	30A	30A	30A	30A	3.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP140形・PUZ-ERP140形・PU-CRP140形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形・PU-CRP160形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	40A	60A	40A	40A	8.0mm ²	φ2.0(3.5mm ²)	φ2.6	φ2.0
PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	50A	60A	50A	50A	14.0mm ²	φ2.0(3.5mm ²)	φ2.6	φ2.0
PUZ-HRP80・HRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ1.6
PUZ-HRP140・HRP160形	40A	60A	40A	40A	5.5mm ²	φ1.6(2.0mm ²)	φ2.0	φ2.0

リモコン配線

記号	(F)
機種	リモコン線太さ
全機種共通	0.3mmのケーブル



注意

正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線用遮断器)を使用する。

●大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災の原因になります。

確認事項

1.漏電遮断器は下記仕様品または、同等品を選定ください。

定格電流	15A	20A	30A	40A	50A	60A
漏電遮断器形名	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV50-Cシリーズ	NV50-Cシリーズ	NV60-Cシリーズ
定格感度電流	30mA	30mA	30mA	30mA	100mA	100mA
動作時間	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内

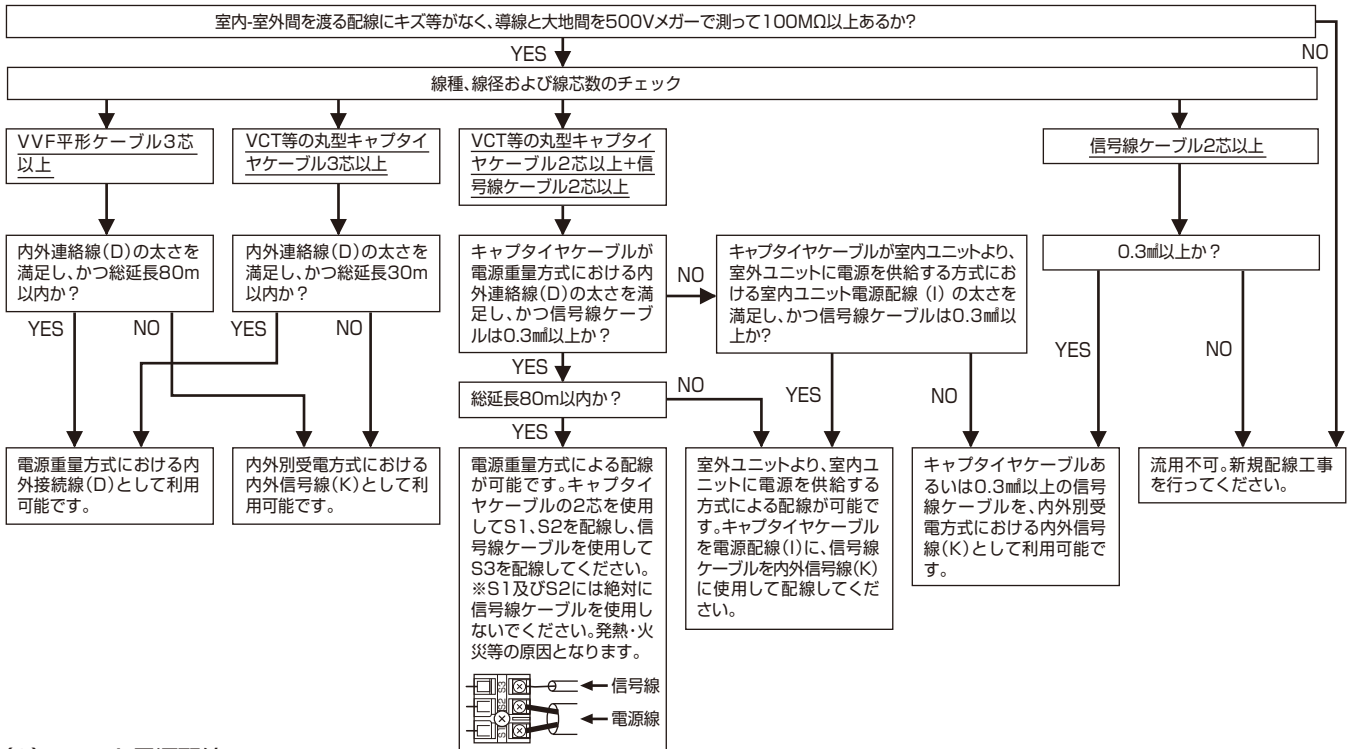
NVは三菱電機
製品の形名です

- 2.電線(C)の太さは、20mまでの電圧降下を見込んで選定してありますので、20mを超える場合は、電圧降下を考慮して「内線規程」等に従い、お選びください。
- 3.内外接続線(D)は、室外-室内間の配線、室内-室内間の渡り配線を含めた総延長は最大80mまで延長できます。
内外接続線(D)は、VVF平形ケーブル(3芯)を使用し、芯線の並び順に室内外ユニット端子盤S1、S2、S3へ接続してください。(S2端子への接続の芯線はVVF平形ケーブルの真中の芯線となるように接続してください。)
- ※VCT等キャブタイヤケーブルの既設配線を流用する場合は、総延長30m以内に限り使用可能です。
新規配線を行う場合は、総延長に関わらずVVF平形ケーブルを使用してください。
- ※室内外の渡り配線が80m以上になる場合は、必ず内外別受電方式または室外ユニットより、室内ユニットに電源を供給する方式にしてください。
- 4.漏電遮断器は、取付け位置等により、始動電流の影響で誤動作することがありますので、選定及び設置に関しては、ご注意ください。

5. 電気配線工事(既設配線を利用する場合・室内外の渡り配線が80m以上となる場合)

- 室外-室内間および室内-室内間の渡り配線を含めた総延長が80m以上となる場合、または内外別受電方式による新規配線の場合は、5ページ以降の内容に従って配線を行ってください。
- 室外ユニットがエコ・アイスミニの場合は電源重量方式のみ対応可能なため(別電源方式が対応不可のため)、室外-室内間および室内-室内間の渡り配線を含めた総延長が80m以上となる場合には対応していません。
- 配線リプレース(既設配線の利用)を行う際には、現場の状況をご確認の上、下記の手順で配線の選定を行ってください。

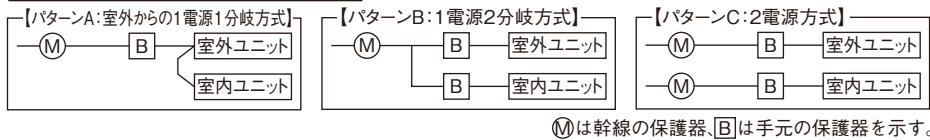
(1) 室内-室外間を渡る配線



(2) ユニット電源配線

- 既設のユニット電源配線を利用する場合、既設の電源配線パターンが下記【パターンD】のように室内電源を室外に渡している場合は利用できません。新規配線工事を行ってください。
- 利用可能な既設電源配線パターンの場合は、配線にキズ等がなく、導線と大地間を500Vメガーで測って100MΩ以上あるか確認してください。絶縁劣化があり、100MΩ以上ない場合は新規配線工事を行ってください。

利用可能な既設電源配線パターン(例)



禁止

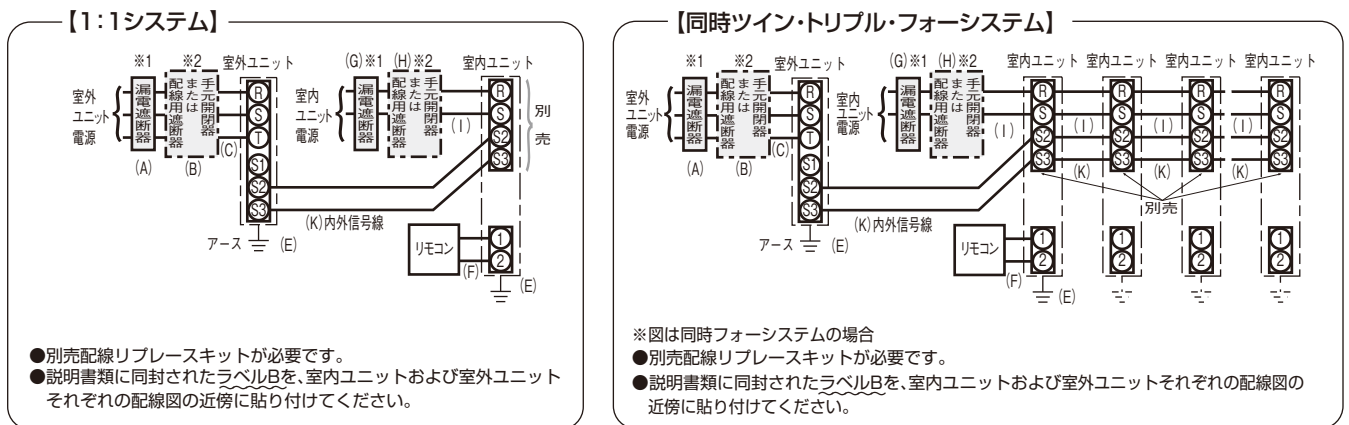
● 下記のような配線は、行わないでください。感電や火災の原因になります。

利用不可能な既設電源配線パターン

【パターンD: 室内からの1電源1分岐方式】

5-1. 内外別受電方式 (室外ユニットがエコ・アイスミニの場合は、内外別受電方式には対応していません。)

- 電源配線は、分岐開閉器・室内・室外の配線パターンとして下記の方法があります。事前に電力会社にご相談の上、その指示に合った配線をしてください。配線にあたっては、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」に従ってください。



- ※1 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバーター回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
- ※2 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。
- ※3 複数台の室内ユニットを設置した場合は必ず同一電源(同一ブレーカー)としてください。個別の電源とした場合、通電されていない室内ユニットからの水タレや、故障の原因となります。
- ※4 配線の未使用線の末端は、必ず絶縁処理を施してください。

5. 電気配線工事 (既設配線を利用する場合・室内外の渡り配線が80m以上となる場合)

5-1. 内外別受電方式(つづき)

お願い 電源(ブレーカー)は必ず室外ユニットから先にONしてください。その後、室内ユニットの電源(ブレーカー)をONしてください。

ユニット電源配線

記号 機種	(A)	(B)		(C)	(K)	(E)	
	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ		配線用遮断器 定格電流	ユニット電源線 太さ	内外信号線 太さ	アース線 太さ(mm)
PUZ-ZRP40S~ZRP56S形・PUZ-ERP40S~ERP56S形・PU-CRP40S~CRP56S形	20A	30A	20A	20A	3.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP63S形・PUZ-ERP63S形・PU-CRP63S形	30A	30A	30A	30A	3.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP80S形・PUZ-ERP80S形・PU-CRP80S形	30A	30A	30A	30A	3.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP40~ZRP63形・PUZ-ERP40~ERP63形・PU-CRP40~CRP63形	15A	15A	15A	15A	2.0mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形・PU-CRP80形	20A	30A	20A	20A	3.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ERP112形・PU-CRP112形	30A	30A	30A	30A	3.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP140・ZRP160形・PUZ-ERP140・ERP160形・PU-CRP140・CRP160形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	40A	60A	40A	40A	8.0mm ²	0.3mm ² ~	φ2.0
PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	50A	60A	50A	50A	14.0mm ²	0.3mm ² ~	φ2.0
PUZ-HRP80・HRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm ²	0.3mm ² ~	φ1.6
PUZ-HRP140・HRP160形	40A	60A	40A	40A	5.5mm ²	0.3mm ² ~	φ2.0

リモコン配線

記号	(F)
機種	リモコン線太さ
全機種共通	0.3mm ² のケーブル



注意

正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線用遮断器)を使用する。

●大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災の原因になります。

室内ユニット配線または室内ユニット電源配線

記号	(G)	(H)		(I)	
	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ		配線用遮断器 定格電流	電源線太さ
室内ユニットの合計台数					
4台以下	15A	15A	15A	15A	2.0mm ²

確認事項

1. 漏電遮断器は下記仕様品または、同等品を選定ください。

定格電流	15A	20A	30A	40A
漏電遮断器形名	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV50-Cシリーズ
定格感度電流	30mA	30mA	30mA	30mA
動作時間	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内

NVは三菱電機製品の形名です

2. 電線(C)及び(I)の太さは、20mまでの電圧降下を見込んで選定しておりますので、20mを超える場合は、電圧降下を考慮して「内線規程」等に従い、お選びください。

3. 内外信号線(K)は、最大120mまで延長できます。

4. 漏電遮断器は、取付け位置等により、始動電流の影響で誤動作することがありますので、選定及び設置に関しては、ご注意ください。

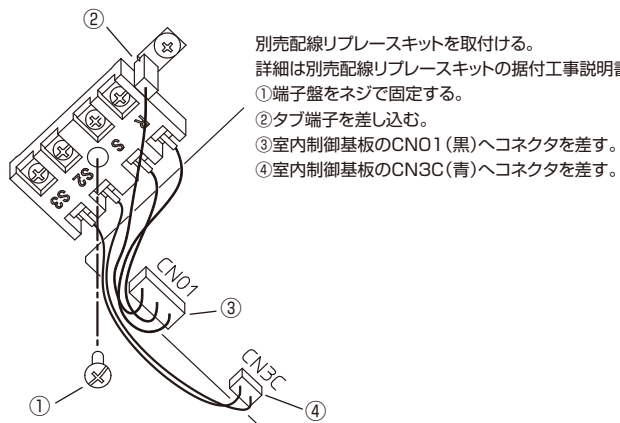
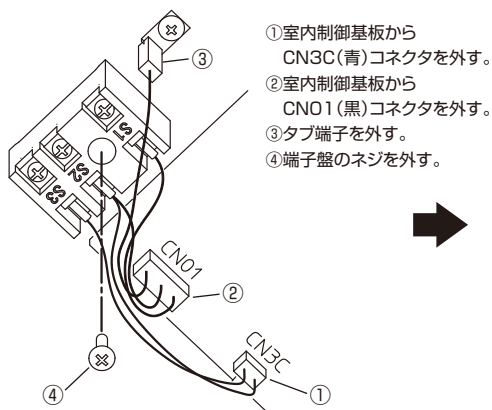
■内外別受電方式または室外ユニットより室内ユニットに電源を供給する方法(7ページ)とする場合は、右表のように、別売配線リブレースキットの準備、室内電気品箱内の配線変更(コネクタ付け換え)および室外制御基板上ディップスイッチ変更が必要になります。

別売配線リブレースキット	必要						
室内電気品箱内のコネクタ付け換え	必要						
室内ユニット及び室外ユニットの配線図近傍へのラベル貼付け	必要						
室外制御基板ディップスイッチの設定(内外別受電方式の場合のみ) ※室外ユニットの据付工事説明書を確認してください。	SWB-3をONに設定する。 ON <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td></td><td></td><td>3</td></tr><tr><td>OFF</td><td>1</td><td>2</td></tr></table> (SWB)			3	OFF	1	2
		3					
OFF	1	2					

※貼り付けラベルは3種類(ラベルA~ラベルC)付属しています。

配線パターンに合わせたラベルを貼り付けてください。

〈室内ユニット端子盤の付け換え〉



別売配線リブレースキットを取付ける。

詳細は別売配線リブレースキットの据付工事説明書を参照ください。

①端子盤をネジで固定する。

②タブ端子を差し込む。

③室内制御基板のCN01(黒)へコネクタを差す。

④室内制御基板のCN3C(青)へコネクタを差す。

5. 電気配線工事(既設配線を利用する場合・室内外の渡り配線が80m以上となる場合)

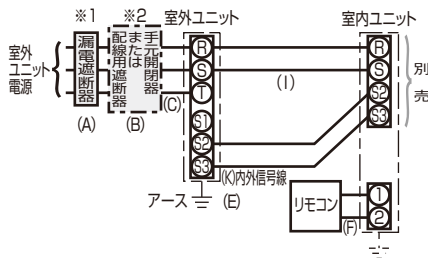
5-2. 室外ユニットより、室内ユニットに電源を供給する方式

■下記配線パターン以外の内容につきましては、5・6ページの内外別受電方式に従って配線を行ってください。

■電源配線は、分岐開閉器・室内・室外の配線パターンとして下記の方法があります。事前に電力会社にご相談の上、その指示に合った配線をしてください。

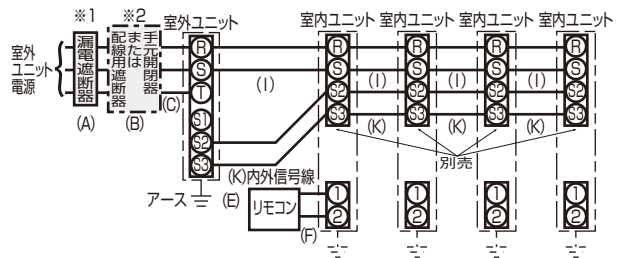
配線にあたっては、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」に従ってください。

【1:1システム】



- 別売配線リブレスキットが必要です。
- 説明書類に同封されたラベルCを、室内ユニットおよび室外ユニットそれぞれの配線図の近傍に貼り付けてください。
- 内線規程「1305-1 不平衡負荷の制限」より、不平衡率30%以内に入らない場合は、本配線パターンとすることはできません。

【同時ツイン・トリプル・フォーシステム】



- ※図は同時フォーシステムの場合
- 別売配線リブレスキットが必要です。
- 説明書類に同封されたラベルCを、室内ユニットおよび室外ユニットそれぞれの配線図の近傍に貼り付けてください。
- 内線規程「1305-1 不平衡負荷の制限」より、不平衡率30%以内に入らない場合は、本配線パターンとすることはできません。

- ※1 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバーター回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
- ※2 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。
- ※3 複数台の室内ユニットを設置した場合は必ず同一電源(同一ブレーカー)としてください。個別の電源とした場合、通電されていない室内ユニットからの水タレや、故障の原因となります。
- ※4 配線の未使用線の末端は、必ず絶縁処理を施してください。
- ※5 電源配線(I)の太さは、20mまでの電圧降下を見込んで選定してありますので、20mを超える場合は、電圧降下を考慮して「内線規程」等に従い、お選びください。



注意 正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線用遮断器)を使用する。

- 大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災の原因になります。

室内ユニット電源配線

記号	(A)	(B)	(I)
室内ユニットの合計台数	漏電遮断器定格電流	配線用遮断器定格電流	電源線太さ
4台以下	15A~40A	15A~40A	2.0mm ²
	50A	50A	3.5mm ²

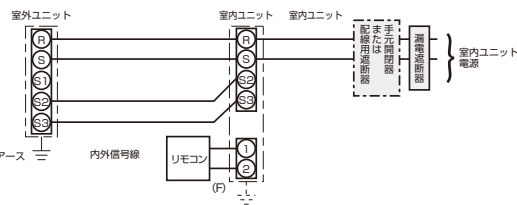
5-3. やってはいけない配線パターン(例)



- 下記のような配線は、行わないでください。感電や火災の原因になります。

室外ユニットの電源を室内ユニットから配線

- 室外ユニットの電源を室内ユニットから配線することはできません。



室内ユニットの電源をS1およびS2に接続

- 室内ユニット電源をS1およびS2に接続することはできません。

